

地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	松前町
------	-----

1 地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）

（5年計画のうち1年目）

実施地域	市町村名： 松前町 民間団体名： 松前町産業クラスター研究会、夫婦桜命名記念「夫婦の手紙コンクール」推進実行委員会、松前コミュニティビジネス研究会	計 1市町村 3団体
取組の目的・目標	<p>プロジェクト名： 松前町協働のまちづくり推進プロジェクト 格差の分野： 地域経済、社会構造の格差</p> <p>藩政時代からの歴史的背景をもつ松前は、古くから「お互い様」という助け合いの言葉が使われてきた地域であり、幾歳を重ね、自らの地域を守り育ててきた。しかし近年は、過疎と少子高齢化、第一次産業の不振や従事者の減少、さらには購買力の流出などにより、地域の活力や連帯力もが失われつつあり、近い将来、地域社会の維持すら困難となることも懸念されている。町財政も健全化への途上にあり、投資的経費どころか、生活インフラや福祉などの義務的経費の捻出すらままならない状況にある。</p> <p>しかし、この状況を打開するためには、新たな産業振興策や、地域社会がもつ潜在力を煥発した町をあげての地域振興策を講じることが必要であり、町は、行政と住民の役割分担の見直しを図りつつ、「協働」の理念により、水産資源や観光資源といった地域資源を活かした地域経済の活性化を推し進め、町民生活の下支えをしながら、教育の充実や雇用の安定、さらには、福祉の充実を図っていく考えにある。</p> <p>これらの課題解決には、官民挙げての対応が不可欠との考え方により、平成19年5月、町内126団体による「協働のまちづくり推進協議会」が結成され、一万人の町民の一致団結により、地域の明日を築いていくことが確認されたところである。当地域再生プロジェクトは、地域資源を活かす産業振興や教育の再生、さらには環境美化や福祉問題と、多岐にわたる事業メニューの構成としたが、そのいずれもが、上述の地域課題が背景となって現出している事象であり、これら事業の遂行にあたっては、当協議会とその傘下団体が主体的役割と実践を担っていくこととなる。</p> <p>本プロジェクトの目標は、当町において都市部との格差が顕著になっている地域経済及び社会構造における建て直しを図るとともに、郷土愛や連帯意識に裏打ちされた田舎町ならではの、ぬくもりや優しさを育てていくことにあるが、この方向性は、20年度から始まる松前町総合計画と帰を一にするものであり、本プロジェクトとの連携により、事業効果を上げていくことができる。</p> <p>北海道が唱導する「自主自立による地域経済の建て直し」は、松前町としても喫緊の課題である。当町としては、「一燈照隅万燈照国」の気概をもって、町民一丸となり、地域再生に向けた取り組みを進めるものである</p>	

取組の成果

住民等の評価

松前本マグロブランド化事業

漁業振興・観光振興への住民の関心は非常に高く、新聞報道等により活動内容を周知しているため、本事業への評価は高い。

松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業

桜は松前町民の誇りであり、心のふるさととなっている。本事業に対する関心も非常に高く、評価も高い。

地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業

「さくらの里」講習会、「さくらの接木」実技講習等に多くの町民の参加が得られ、関心の高さが伺えた。

23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業

3町内会をモデル地区として、目的等の周知のため地域ケア会議を開催し、理解が得られた。

松前町独自の教育指針策定事業

今年度については、外部アドバイザーによる講演、外部組織「松前町の教育を考える検討会」による課題等の検討及び町内の児童生徒・保護者・教員を対象としたアンケート調査の実施分析による基礎的データの収集などを行なったが、現状ではまだ評価対象となる成果を得ていない。

「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業

「書道講座」の開設により、「書のまちづくり」を町で推進しているという町民の認識を得ることができ、本事業に対する関心が高まった。

計画に対する達成度

協働のまちづくり推進プロジェクトとし、7事業を計画し、うち1事業については、実施時期等の関係で事業実施できなかったが、6事業については、計画どおり実施できた。

松前本マグロブランド化事業

築地市場への調査・トレーサビリティブックの作成に加え、産地表示（漁船名入り）シールを漁業者の負担も入れ制作するなど、初年度の計画としては、十分達成できた。

松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業

募集期間内に1,066通の応募があり、計画どおり達成できた。

地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業

各種ビジネスプランの具体的な検討やその準備が進んでおり、初年度の計画は達成できた。

23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業

計画した事業は全てできた。

松前町独自の教育指針策定事業

「松前らしい公教育」の定義や方向性を求めるための、基礎的データの収集ができ、初年度の計画は、十分達成できた。

「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業

受講者全員ではないが、自主的なサークルへ移行への意思も確認でき、初年度の計画は達成できた。

	<p>具体的な効果</p> <p>松前本マグロブランド化事業 漁業者が築地市場への調査を行なった結果、それまで「松前産」というシール表示だったが、漁業者の「船名」を入れることで市場・消費者への信頼になることを学び、新たに産地表示シールを作成するなど、松前本マグロのブランド化への気運が高まった。 また、トレーサビリティブックを作成し、漁業者一人ひとりの船名・顔写真を掲載することにより、安全・安心な製品を届ける決意表明となっている。さらに、百貨店や報道機関へ積極的に情報発信することで、松前本マグロの知名度向上に繋がった。</p> <p>松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業 「夫婦の手紙コンクール」の実施により、都市及び町外との交流促進が図られ、桜の知名度の向上に繋がった。</p> <p>地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業 「さくらの里」講習会の開催により、松前公園の桜に対する町民の関心が増した。また、研究会の活発な議論により、「海峡遊覧・遊漁船ビジネス、松前トレッキングガイドビジネス、古都寺町ガイドビジネス」の具体的な検討及びその準備ができた。</p> <p>23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業 モデル地区とした3町内会では、地域がつながりを持ってみんなで支え合うことの大切さが確認され、今後も地域ケアネットワーク会議などで情報交換をしていくことになった。</p> <p>松前町独自の教育指針策定事業 現状松前町の教育が抱えている課題の確認、課題に関する取り組み意識の高揚が図られた。また、アンケート調査等による実態把握が、教育委員会として独自の課題認識に繋がった。 「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業 楷書・行書をはじめ個性を生かした創作、さらには刻字などが書道講座に盛り込まれ、受講者は幅広く「書」の素晴らしさを楽しく学ぶことができた。</p>
<p>課題・問題点</p>	<p>課題点等</p> <p>松前本マグロブランド化事業 漁業者の意識改革に繋がったが、今後これを定着させるために更なる処理技術の向上、通年供給できる体制の構築、PR活動が必要である。また、ご当地グルメ開発では賛同する業者が少なく、事業の見直しが必要となった。</p> <p>松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業 今後、夫婦の手紙コンクール審査会を実施することとなるが、1,066通もの応募があり、審査方法、発表会の開催、冊子の作成等についての対応が必要となる。</p> <p>地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業 公園管理ビジネス実現のため、より深い桜の知識が必要となっている。また、海峡遊覧・遊漁船ビジネスのモデルコースの作成にあたり、天候に恵まれず現地確認ができなかった。</p> <p>23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業 高齢化が進む中で、地域自らどれくらい活動できるかが課題である。</p>

松前町独自の教育指針策定事業

教育指針の形態「条例、目標等」に関する議論、歴史的風土に根ざした教育の具現化、住民や地域意見を具体的にどう反映させるかななどの課題がある。

「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業

一般町民を対象とした「講座」は、継続要望が強いことから今後も実施することとなるが、早期に自主活動への移行や指導者の養成ができるよう取り組む必要がある。また、児童・生徒を対象とした事業の展開を図る必要がある。

課題を踏まえた今後の展開

松前本マグロブランド化事業

処理技術研修会の継続実施、津軽海峡の他産地との連携、ご当地グルメ開発事業の再構築、トレーサビリティブックを活用した商談会の開催、クラスター研究会を継続する。

松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業

夫婦の手紙コンクール審査会の実施、受賞作品の発表会の開催、最優秀作品等の冊子を作成する。

地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業

桜マスター講習会を開催し、さくらの知識を持った桜マスターの育成を進めるとともに、海峡遊覧・遊漁船ビジネスのモデルコースの現地確認、トレッキングガイド養成講習会の開催など、各種ビジネスプランの実現のため、研究会を継続実施する。

23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業

残り20町内会で地域ケア会議を開催し、地域で支え合うしくみを構築する。

松前町独自の教育指針策定事業

教育指針の策定、教育指針に盛り込むべき教育像達成のための施策を推進する。

「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業

一般町民を対象とした「講座」については、受講者が自主サークルによる活動ができるよう移行を進め、児童生徒を対象に新たな「出前書道講座」を開設する。

また、松前出身の書家・金子鷗亭の生誕100年を記念し、平成20年、創玄書道会（本部：東京都）の協力を得て、国内最大の石碑群金子鷗亭記念「北鷗碑林」（石碑84基）を造成する。

2 地域再生プロジェクト構成事業（今年度実施分）

（1）実績額について

（単位：千円）

No	事業名 ----- 実施主体 ----- 実施年度	事業費	財 源 内 訳					交付金要望額
			国の支援制度	道の支援制度	市町村補助等	自己財源	その他	
1	松前本マグロブランド化事業 ----- 松前産業クラスター研究会 ----- 19年度～23年度	() 4,059	()	()	() 2,550	() 1,129	() 380	() 2,550
	松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業 ----- 「夫婦の手紙コンクール」推進実行委員会 ----- 19年度～23年度	() 1,023	()	()	() 1,000	()	() 23	() 1,000
3	地域資源を活かしたコミュニティビジネス 発掘事業 ----- 松前コミュニティビジネス研究会 ----- 19年度～20年度	() 1,402	()	()	() 300	() 1,102	()	() 300
	花観光の先陣を切る「松前花いっぱい運動」事業 ----- 松前町 ----- 19年度～23年度	() 0	()	()	()	()	()	() 0
5	23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」 構築事業 ----- 松前町 ----- 19年度～20年度	() 584	()	()	()	() 584	()	() 250
	松前町独自の教育指針策定事業 ----- 松前町 ----- 19年度～21年度	() 501	()	()	()	() 501	()	() 382
7	「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業 ----- 松前町 ----- 19年度～21年度	() 2,319	()	()	()	() 319	() 2,000	() 318
	計 事業数 [7] ----- 実施主体数 [7]	() 9,888	()	()	() 3,850	() 3,698	() 2,340	() 4,800

注 1 プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。
2 記載に当たっては、別記第2号様式に準じること。

(2) 実施内容について

No	事業名	計画内容	実施状況	効果・課題	今後の展開
1	松前本マグロブランド化事業	産業クラスター研究会の開催、マグロの商品価値向上研修の実施、ご当地グルメの開発、松前マグロのPR等を実施し、松前の食の魅力を高め、交流人口の増加を図る。	クラスター研究会を2回実施 築地市場への調査 (1/23~1/25) 24名参加 トレーサビリティブックの制作 (A5版16ページ1,000部) 産地表示シール(漁船名入り)の作成 38隻分 松前マグロのPR (2/21~2/23 札幌東急デパート)	(効果)松前本マグロの高品質化、ブランド化へ向け漁業者の意識改革が図られた。 (課題)今後これを定着させるためさらなる処理技術の向上、通年供給できる体制の構築、PR活動が不可欠である。また、ご当地グルメの開発では、賛同する業者が少なく、事業の見直しが必要である。	処理技術研修会の継続実施、津軽海峡の他産地との連携、ご当地グルメ開発事業の再構築、トレーサビリティブックを活用した商談会の開催、クラスター研究会を継続実施する。
2	松前夫婦桜「夫婦の手紙」コンクール事業	夫婦の手紙コンクールを実施し、入賞作品の発表や入賞者の松前旅行などにより、都市部からの交流促進を図るとともに、松前の桜の知名度の向上を図る。	募集期間を平成19年12月14日~平成20年2月末日とし、1,066通の応募があった。	(効果)応募者の年齢は、20代~90代まで幅広く、遠くは沖縄、九州、海外のアメリカユタ州からの応募もあり、国内外の他地域との交流促進が図られ、桜の知名度の向上に繋がった。	夫婦の手紙コンクール審査会の実施、受賞作品の発表会の開催、最優秀作品等の冊子を作成する。
3	地域資源を活かしたコミュニティビジネス発掘事業	桜マスター、遊漁船ツアー、山岳ガイド、寺町修行など多彩な体験観光プログラムを開発し、地域資源を活かしたコミュニティビジネスを立ち上げ、交流人口の増加及び雇用機会の拡大を図る。	「さくらの里」講習会を2回実施し、「さくら接木」実技講習会を1回実施した。また、海峡遊覧・遊漁船ビジネス、松前トレッキングガイドビジネス、古都寺町ガイドビジネスについての具体的な検討及びその準備を進めた。	(効果)「さくらの里」講習会の開催により、松前公園の桜に対する町民の関心が増した。また、研究会の活発な議論により、「海峡遊覧・遊漁船ビジネス、松前トレッキングガイドビジネス、古都寺町ガイドビジネス」の具体的な検討及びその準備ができた。	桜マスター講習会を開催し、さくらの知識を持った桜マスターの育成を進めるとともに、海峡遊覧・遊漁船ビジネスのモデルコースの現地確認、トレッキングガイド養成講習会の開催など、各種ビジネスプランの実現のため、研究会を継続実施する。
4	花観光の先陣を切る「松前花いっぱい運動」事業	町花である「桜」以外にも「春から秋まで花のある町」を目指し、沿道や公用地、各家庭など、町内会組織を核に、花の植栽を進め、美しい潤いのあるまちづくりに取り組む。	補助金等の申請時期が11月となったことから、植栽時期の関係で事業実施が困難となり、今年度の事業は実施できなかった。	(課題)植栽時期を逃さず、確実に事業を実施する必要がある。	ボランティア組織の結成、モデル地区を選定し植栽活動を実施する。

5	23町内会総ぐるみ「地域ケアネットワーク」構築事業	各地域の活動内容や取り組みを把握するためのアンケート調査の実施、モデル事業（地域ケア会議の開催）の実施、地域ケア講演会を開催し、地域で支え合うしくみを構築する。	アンケート調査の実施 （全町内会23名、全老人クラブ22名、全婦人会20名）回答率72% 地域ケア会議（モデル事業）の開催3地区 地域ケア講演会の開催 3/29 参加人数48名	(効果)モデル地区とした3町内会では、地域がつながりを持ってみんなで支え合うことの大切さが確認され、今後も地域ケア会議などで情報交換をしていくことになった。 (課題)高齢化が進む中で、地域自らどれくらい活動できるかが課題である	残り20町内会で地域ケア会議を開催し、地域で支え合うしくみを構築する。
6	松前町独自の教育指針策定事業	外部アドバイザーによる講演、町民検討組織による課題等の検討及び町内の児童生徒・保護者・教員を対象としたアンケート調査の実施分析による基礎的データの収集などを行ない「松前らしい公教育」のあり方を検討し松前独自の教育指針を策定する	アンケート調査の実施 外部組織「松前町の教育を考える検討会」(委員10名)による課題等の検討 10回 外部アドバイザーによる講演会の開催 5/31、3/22 参加人数78名	(効果)現状松前町の教育が抱えている課題の確認、課題に関する取り組み意識の高揚が図られた。また、アンケート調査等による実態把握が、教育委員会として独自の課題認識に繋がった。 (課題)教育指針の形態「条例、目標等」に関する議論、歴史的風土に根ざした教育の具現化、住民や地域意見を具体的にどう反映させるかなどが課題である。	教育指針の策定、教育指針に盛り込むべき教育像達成のための施策を推進する。
7	「文化の香り漂う書のまちづくり」推進事業	「銅雀台瓦硯」の購入・書道講座など住民参加の文化活動を展開し、「書のまち・松前」を全国にアピールするとともに、青少年への書道を通じた教育を図る。	銅雀台瓦硯の購入 書道講座の開催 平成19年7月10日～平成20年2月26日 24回開催 参加実人員41名(延べ640名)	(効果)受講者は幅広く「書」の素晴らしさを楽しく学ぶことができた。また、松前家の家宝である「銅雀台瓦硯」を購入することができ、84年ぶりに松前に戻すことができた。 (課題)児童・生徒を対象とした事業の展開を図ること。「銅雀台瓦硯」を「書のまち」の象徴として活用していくことが必要である。	児童生徒を対象に新たな「出前書道講座」を開設する。「銅雀台瓦硯」は、松前城資料館等で中世の北方交易を示す貴重な資料として公開していきたい。

注 1 (1)に記載した番号に対応する事業について、単年度の状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。